

45. ●竹原和彦, アトピー性皮膚炎-いま, 皮膚科では, 臨床眼科, 1999. 53: 53-255
46. 竹原和彦, 難治性皮膚潰瘍, Medical Practice, 1999. 16: 2069-2073
- 和雑誌
1. ●川島 眞, 宮地良樹, 中川秀己, 飯塚 一, 伊藤雅章, 塩原哲夫, 島田眞路, 瀧川雅浩, 竹原和彦, 橋本公二, 古江増隆, アトピー性皮膚炎の診療に対する患者の認識についてのアンケート調査(第1報), 臨皮, 2001. 55: 113-119.
 2. 古瀬 忍, 佐藤伸一, 高田 実, 竹原和彦, 馬淵 智仁, 加藤文彦, 朝倉英策, 全身の紫斑にて発症したT細胞リンパ腫の1例, 臨皮, 2001. 55: 171-174.
 3. 福島佐知子, 川原 繁, 竹原和彦, 骨髄性プロトポルフィリン症: 11例の観察, 臨皮, 2001. 55: 289-293.
 4. 佐藤伸一, 濱口儒人, 竹原和彦, MESACUP-2 テスト Scl-70 による抗トポイソメラーゼ I 抗体の測定と臨床的有用性. 臨床と研究, 2001. 78: 593-597.
 5. ●川島 眞, 宮地良樹, 中川秀己, 飯塚 一, 伊藤雅章, 塩原哲夫, 島田眞路, 瀧川雅浩, 竹原和彦, 橋本公二, 古江増隆, アトピー性皮膚炎の診療に対する患者の認識についてのアンケート調査(第1報)AD Forum, 臨皮, 2001. 55: 113-119.
 6. 竹原和彦, 血管炎; 皮膚科医の立場から, 血管炎, 長澤俊彦監修, 橋本博史編集, 朝倉書店, 2001. 95-99.
 7. 佐藤伸一, 永岡徹也, 藤井秀孝, 竹原和彦, プロトポンプ阻害剤 Rabeprazole の全身性強皮症に伴う逆流性食道炎に対する臨床効果, 臨床と研究, 2001.78 : 771-775.
 8. 中村幸世, 藤本晃英, 森 俊典, 高田 実, 竹原和彦, 湊 宏尾, 大橋武志, 基底細胞癌, Tubular apocrine adenoma(TAA) および Apocrine adenocarcinoma が発生した脂腺母斑の1例. 皮膚臨床. 2001. 43: 321-323.
 9. ●竹原和彦, アトピー性皮膚炎をめぐる民間療法被害, 日本皮膚アレルギー学会誌. 2001. 9: 14-18.
 10. 湯上 徹, 島田由佳, 八田尚人, 佐藤伸一, 竹原和彦, び慢浸潤型皮膚サルコイドーシスを合併した全身性強皮症の1例, 皮膚臨床, 2001. 43: 161-164.
 11. ●稲沖 真, 佐藤伸一, 竹原和彦, アトピー性皮膚炎患者における抗 CD40 抗体 +interleukin-4 による IgE 産生増強に対する塩酸セチリジンの抑制効果の検討, 診療と新薬, 2001. 38: 205-208.
 12. 濱口儒人, 森田礼時, 八田尚人, 佐藤伸一, 竹原和彦, CNS ループスの活動性の指標として脳波が有用であった SLE の1例, 皮膚臨床, 2001. 43: 583-586.
 13. 稲沖 真, 長谷川洋一, 有川佳代, 越後岳士, 竹原和彦, 竹田公英, 原田ゆかり, テトラサイクリンとニコチン酸アミドの併用内服療法が奏効した水疱性類天疱瘡の4例, 西日皮膚, 2001. 63: 235-239.
 14. 藤本晃英, 川原 繁, 竹原和彦, 白斑黒皮症様の皮疹を伴った Chronic actinic dermatitis の1例-シクロスポリン内服およびタクロリムス軟膏が有効であった症例-, 皮膚臨床, 2001. 43: 695-699.
 15. 竹原和彦, 永岡徹也, 佐藤伸一, 玉木 毅, 難

- 治性皮膚潰瘍治療における塩基性線維芽細胞増殖因子の基礎と臨床応用, 臨床と研究, 2001. 78 : 1838-1842.
16. 竹原和彦, 川原 繁, 金原拓郎, 稲垣 豊, 創傷治癒におけるコラーゲンプロモーター領域遺伝子の活性化とサイトカインによる制御, 臨床成人病, 31: 3164-3165.
17. 白崎文朗, 高田 実, 石井貴之, 藤本晃英, 八田尚人, 竹原和彦, 乳房外パジェット病の内分泌療法/ 進行期の乳房外パジェット癌に対する抗アンドロゲン療法の試み, Skin Cancer, 2001. 16: 247-250
18. 高田 実, 稲沖 真, 竹原和彦, -INF による免疫能の変化/ 悪性黒色腫患者における-インターフェロン単回投与前後の免疫能の変化, Skin Cancer, 2001. 16: 262-264.
19. 河野匡哉, 中嶋憲一, 小西章太, 佐藤伸一, 竹原和彦, 利波紀久, 核医学誌, 2001. 38: 727-735.
20. 山根謙一, 尹 浩信, 矢澤徳仁, 久保正英, 菊池かな子, 相馬良直, 竹原和彦, 玉置邦彦, Progressive systemic sclerosis sine scleroderma 自験例と文献例からみたその臨床的特徴について, 日皮会誌, 2000. 110: 183-188
21. 八田尚人, 森 俊典, 高田 実, 竹原和彦, 腰部の先天性母斑細胞母斑から発生した悪性黒色腫-術前リンフォシンチグラフィと術中Mapping の併用による Sentinel node の同定-, 皮膚臨床, 2000. 42: 129-132.
22. 高田 実, 八田尚人, 竹原和彦, 悪性黒色腫の術後補助科学療法による治療関連白血病-1例の報告と補助科学療法を受けた 73 例の追跡調査-, 日皮会誌, 2000. 110: 297-300.
23. 佐藤伸一, 島田由佳, 竹原和彦, Oxazolone 誘発接触皮膚炎に対する BAY u 3405 の効果, 臨床と研究, 2000. 77: 987-990.
24. ●竹原和彦, アトピー性皮膚炎治療の注意点_ステロイド拒否症, アレルギーの臨床, 2000. 20: 540-545.
25. ●竹原和彦, 飯塚 一, 伊藤 雅章, 玉置 邦彦, 川島 眞, 塩原 哲夫, 瀧川 雅浩, 宮地 良樹, 橋本 公二, 金子 史男, 吉川 邦彦 (日本皮膚科学会, 学術委員会, アトピー性皮膚炎不適切治療健康被害実態調査委員会), アトピー性皮膚炎における不適切による健康被害の実態調査 (最終報告) , 日皮会誌, 2000. 110: 1095-1098.
26. 板沢陽子, 飛田敦子, 前田幸子, 竹原和彦, 強皮症患者の難治性皮膚潰瘍に伴う痛みへの援助, Expert Nurse, 2000. 16: 22-25
27. 小寺雅也, 稲沖 真, 藤本晃英, 森 俊典, 竹原和彦, 原発性肺癌と胸腺腫を合併した Paraneoplastic Pemphigus の1例, 皮膚臨床, 2000. 42: 871-875.
28. ●蕪城裕子, 島田由佳, 竹原和彦, アトピー性皮膚炎患者におけるアトピービジネスに対する意識調査, 日皮会誌, 2000. 110: 1277-1282
29. 小寺雅也, 森 俊典, 佐藤伸一, 竹原和彦, 抗 RNA Polymerase 抗体陽性の全身性強皮症の1例, 皮膚臨床, 2000. 42: 1303-1305.
30. 稲沖 真, 佐藤伸一, 島田由佳, 竹原和彦, 全身性強皮症患者にみられる血中可溶性 L-セレクチンの増加に対するアルプロスタジルの抑制効果の検討, Medical Postgraduates, 2000. 38: 295-298.

31. 小寺雅也, 佐藤伸一, 竹原和彦, 抗セントロメア抗体陽性の limited cutaneous systemic sclerosis(ISSc)患者における呼吸機能異常について, 日皮会誌, 2000. 110 : 1963-1967.
32. 古瀬 忍, 森 俊典, 竹原和彦, 自家感作性皮膚炎が続発したラノリン含有製剤による接触皮膚炎の1例, 皮膚臨床, 2000. 42 : 1701-1704.
33. 森田礼時, 八田尚人, 高田 実, 竹原和彦, 下腹部に生じた mucinous carcinoma of the skin の1例, 臨皮, 1999. 53 : 176-178.
34. 森田礼時, 八田尚人, 高田 実, 竹原和彦, 雪状炭酸圧抵療法を受けた巨大色素性母斑上に生じた悪性黒色腫, 皮膚臨床, 1999, 41 : 263-265.
35. 山田瑞貴, 谷内克成, 佐藤伸一, 竹原和彦, 大橋武志, 蛋白漏出性胃腸症を伴った全身性エリテマトーデスの1例, 皮膚臨床, 1999. 41 : 405-408.
36. 信崎幹夫, 坂井秀彰, 竹原和彦, 鍛冶友昭, 抗 U3RNP 抗体陽性全身性強皮症の1例, 皮膚臨床, 1999. 41 : 439-441.
37. 青木啓真, 森田礼時, 八田尚人, 佐藤伸一, 竹原和彦, 自己免疫性溶血性貧血で初発した抗 U1RNP 抗体陽性オーバーラップ症候群の1例, 皮膚臨床, 1999. 41 : 457-460.
38. 佐藤伸一, 竹原和彦, 抗 CD40 抗体 +interleukin-4 による IgE 産生増強に対する塩酸アゼラスチンの抑制性効果の検討, Progress in Medicine, 1999. 19 : 1195-1199.
39. ● 佐藤伸一, 竹原和彦, Suplatast tosilate(IPD-1151T)はアトピー性皮膚炎患者由来末梢血単核球による増強した IgE 産生を抑制する, 新薬と臨床, 1999. 48 : 732-736.
40. 金原拓郎, 有川佳代, 岳尾基一, 八田尚人, 高田 実, 竹原和彦, 職業性放射線曝露により生じた手の有棘細胞癌 : 2例の報告, Skin Cancer, 1999. 14 : 44-47.
41. 高田 実, 藤本晃英, 島田由佳, 長井正樹, 八田尚人, 竹原和彦, 村田久仁男, erbB-2 遺伝子の増幅を認めた急速進展型乳房外 Paget 病の1例, Skin Cancer, 1999. 14 : 187-189.
42. ● 川原 繁, 谷内江昭宏, 竹原和彦, 小児のアトピー性皮膚炎の診断, 治療および民間療法による悪化例に関するアンケート調査-石川県内の皮膚科専門医および小児科専門医における実態-, 日皮会誌, 1999. 109 : 1431-1438.
43. 古瀬 忍, 小松奈保子, 長谷川 稔, 八田尚人, 筒井清広, 高田 実, 竹原和彦, 被覆表皮の一部に悪性外毛根鞘腫を合併したメルケル細胞癌の1例, 臨皮 1999. 41 : 2109-2112.
44. ● 竹原和彦, 西島千博, アトピー性皮膚炎患者 75 人に対するステロイド外用についての意識調査, アレルギーの臨床, 1999. 19 : 1220-1226.
45. 中條園子, 西島千博, 森 俊典, 八田尚人, 竹原和彦, 慢性骨髄性白血病患者にみられた Hydroxyurea による下腿潰瘍, 皮膚臨床, 1999. 41 : 1581-1584.
46. 青木啓真, 森田礼時, 八田尚人, 竹原和彦, 腹痛発作および蕁麻疹様皮疹を伴い, アニサキス症と考えられた1例, 皮膚臨床, 1999. 41 : 733-735.
47. 西部泰弘, 高松由佳, 森 俊典, 八田尚人, 竹原和彦, 中川 淳, 長谷川洋一, インスリン受容体異常症 Type C に合併した黒色表皮腫の1例, 皮膚臨床, 1999. 41 : 1249-1251.

その他

1. 竹原和彦, リウマチと合併症 帯状疱疹について, 流, 日本リウマチ友の会編, 2001. 212 : 36-37
2. 竹原和彦, 全身性強皮症, 毎日ライフ, 2001. 6 : 23-27
3. 竹原和彦, 膠原病と皮膚症状, 膠原病ハンドブック (30 周年記念誌, 全国膠原病友の会編), 2001. 84-85
4. ●竹原和彦, アトピー性皮膚炎難治症例に対する対策, アレルギー免疫, 2001. 8 : 644-649
5. 竹原和彦, Clinical Exercises, 98, 臨皮, 2001. 55 : 419
6. 竹原和彦, 全身性強皮症の最新情報, 難病と在宅ケア, 2001. 7 : 28-31
7. 竹原和彦, 貴方も名医, CLINIC magazine, 2001. 365 : 9
8. ●竹原和彦, アトピー性皮膚炎の管理_ステロイド外用薬の適正使用_, Nikkei Medical, 2001. 113-115
9. ●竹原和彦, 保護者の皆さんから, 質問されたとき, あわてなくてすむアトピーの症状・治療・ふだんの生活のお話, 健, 2001. 30 : 14-18
10. ●竹原和彦, アトピー性皮膚炎の管理 スステロイド外用薬の適正使用, 日経メディカル (Nikkei Medical), 2001. 9 : 113-115
11. 竹原和彦, リウマチと検査 皮膚の検査, 流, 日本リウマチ友の会編, 2001. 217 : 55-58
12. 竹原和彦, 川原 繁, 金原拓郎, 稲垣 豊, 創傷治癒におけるコラーゲンプロモーター領域遺伝子の活性化とサイトカインによる制御, 臨床成人病, 2001. 31 : 1364-1365
13. ●大城戸宗男, 竹原和彦, 江藤隆史, 五十嵐敦之, 日本皮膚科学会アトピー性皮膚炎治療ガ

- イドライン1年を振り返って, アレルギー・免疫 2001. 118 : 93-99
14. ●竹原和彦, 全身性強皮症にステロイド全身投与の適応はあるか, 日皮会誌, 2001. 111 : 1810-1811
15. ●竹原和彦, 日本皮膚科学会・アトピー性皮膚炎セッション 日本皮膚科学会・アトピー性皮膚炎治療問題委員会活動報告, 日皮会誌, 2001. 111 : 1869-1870
16. ●竹原和彦, 全身性強皮症にしてロイ度全身投与の適応はあるか, 日皮会誌, 2001. 111 : 1810-1811
17. ●竹原和彦, 講演 アトピー性皮膚炎の正しい治療を_アトピービジネスを考える_, あおぞら, 日本アレルギー友の会編, 平成 12 年 2 月 1 日付, 2000
18. ●竹原和彦, アトピー性皮膚炎における不適切治療による健康被害の実際調査 マルホ皮膚科セミナー 2000. 145 : 26-28
19. ●竹原和彦, アトピー性皮膚炎の正しい治療_アトピービジネスを考える_ 平成 11 年度秋田医学会公開シンポジウム「増えつつアレルギー疾患の克服に向けて」, 2000. 9-17
20. ●竹原和彦, アトピー性皮膚炎について, 健康づくり, 2000. 263 : 18-20
21. 川原 繁, 竹原和彦, アクトシン[®]軟膏の褥瘡における長期 (16 週) 観察下の有効性と安全性の検討_北陸地区における成績_ 西日皮膚, 2000. 62 : 540-547
22. ●竹原和彦, アトピー性皮膚炎における不適切治療による健康被害の実態, 医学のあゆみ, 2000. 195 : 830-831
23. ●竹原和彦, アトピー性皮膚炎とステロイド外用剤 誤解が生んだ「悪魔の薬」伝説 被害続

- 出の民間療法の温床に, サイアス, 朝日新聞社, 1999. 4: 26-27
24. ●竹原和彦, アトピービジネスとステロイド外用薬・悪魔の薬伝説, PTM治療マニュアル, 1999. 10: 7(4)
25. 川原 繁, 藤本晃英, 竹原和彦, 下腿に難治性皮疹がみられる尋常性乾癬患者における下腿周囲の変動, 第13回日本乾癬学会記録集, 1999. 54
26. 竹原和彦, リウマチと合併症, 流, 日本リウマチ友の会編, 1999. 200
27. ●竹原和彦, アトピーは民間療法で悪化皮膚科学会の調査で判明, 日経メディカル (Nikkei Medical), 1999. 5: 21
28. 竹原和彦, 皮膚をめぐる最近の話題 特集にあたって Pharma Medica, 1999. 17: 11-12
29. ●竹原和彦, アトピー性皮膚炎における不適切治療_医療サイド, 患者サイドへの提言_ラージュ, 薬業時報社, 1999. 256
30. ●竹原和彦, アトピービジネスに警告!_日本皮膚科学会が被害実態を初めて報告_, ばんぶう, 1999. 217: 72-75
31. 佐藤伸一, 平田昭夫, 西島千博, 長谷川稔, 竹原和彦, 全身性強皮症強皮症における腎血管抵抗の上昇に対するトランドラプリル製剤の効果, 臨床と研究, 1999. 76: 1412-1414
32. ●竹原和彦, アトピー性皮膚炎, Clinical Derma, 1999. 1: 9-10
33. 竹原和彦, アトピー性皮膚炎の正しい知識を知っておこう, Expart Nurse, 1999. 15: 28-31
34. ●竹原和彦, アトピー性皮膚炎は真の専門医へ, 治療, 1999. 81: 2406-2407
35. ●竹原和彦, 子どものアトピー性皮膚炎の現状とアトピービジネスの実態, チャイルドヘルス, 1999. 1: 900-902
36. ●竹原和彦, 飯塚 一, 伊藤雅章, 玉置邦彦, 川島 眞, 塩原哲夫, 瀧川雅浩, 宮地良樹, 橋本公二, 金子史男, 吉川邦彦, アトピー性皮膚炎における不適切治療による健康被害の実態調査 (中間報告), 日皮会誌, 1999. 109: 2073-2074
37. 竹原和彦, 強皮症臨床・今日の課題と21世紀への提言, 日皮会誌, 1999. 109: 1819
38. 竹原和彦, 強皮症_診断と治療のガイドライン 日皮会誌, 1999. 109: 808-1817
- 諸橋正昭
Toyoda M., Nakamura M. Makino T., Kagoura M. and Morohashi M.: Sebaceous glands in acne patients express high levels of neutral endopeptidase. Exp. Dermatol. (in press)
- Toyoda M., Nakamura M. and Morohashi M.: Neuropeptides and sebaceous glands. Eur. J. Dermatol. (in press)
- Toyoda M. and Morohashi M.: Acne - from ultrastructure to therapy. Cosmetic Medicine (in press)
- Luo Y., Toyoda M., Nakamura M. and Morohashi M.: Morphological analysis of skin in senescence-accelerated mouse P 10. Medical Electron Microscopy (in press)
- Higaki S., Kitagawa T., Morohashi M. and Yamagishi T.: Minocycline effectively reduces acid produced by *Propionibacterium acnes*. J. Dermatol., 29(1): 20-22, 2002.

Toyoda M., Nakamura M., Makino T. and Morohashi M.: Nerve growth factor and substance P are useful plasma markers of disease activity in atopic dermatitis. *Br. J. Dermatol.* (in press)

Morohashi M., and Toyoda M.: The alterations of cutaneous nervous system with cyclosporin A treatment. *Merkel Cell, Merkel Cell Carcinoma and Neurobiology of the Skin*. Ed. by Suzuki H., and Ono T., pp209-219, Elsevier, Amsterdam, 2000.

Kagoura M., Toyoda M., Matsui C., and Morohashi M.: Merkel cell carcinoma: an immunohistochemical and ultrastructural study. *Merkel Cell, Merkel Cell Carcinoma and Neurobiology of the Skin*. Ed. by Suzuki H., and Ono T., pp169-172, Elsevier, Amsterdam, 2000.

Toyoda M., Luo T., and Morohashi M.: New insights into the participation of cutaneous neurologic factors in photoaging processes. *Merkel Cell, Merkel Cell Carcinoma and Neurobiology of the Skin*. Ed. by Suzuki H., and Ono T., pp221-231, Elsevier, Amsterdam, 2000

Toyoda M., Makino T., and Morohashi M.: Immunolocalization of substance P in human mast cells. *Arch. Dermatol. Res.*, 292:418-421, 2000.

Ida M., Kageyama H., Sato T., Kamiyama T., Toyomoto T., Ozaki Y., Kajita M., Morohashi M., and Shiraki K.: Characterization of acyclovir susceptibility and genetic stability of varicella-zoster viruses isolated during acyclovir therapy. *J. Dermatol. Sci.*, 23(1):63-72, 2000.

Higaki S., Kitagawa T., Morohashi M., and Yamagishi T.: Characterization of peptostreptococcus species in skin infections. *J. Int. Med. Res.*, 28:144-148, 2000.

Masunaga T., Shimizu H., Matsui C., Aozaki R., Morohashi M., Yasumoto S., and Nishikawa T.: LAMB3 gene transfection into SV40-transformed keratinocytes from patient with Herlitz junctional epidermolysis bullosa. *Arch. Dermatol. Res.*, 292:195-197, 2000.

Toyoda M., Luo Y., and Morohashi M.: Aging in epidermal melanocytes. *Nagoya Med. J.*, 43:97-105, 2000.

Higaki S., Kitagawa T., Kagoura M., Morohashi M., and Yamagishi T.: Relationship between *Propionibacterium acnes* biotypes and Jumi-haidoku-to. *J. Dermatol.*, 27(10): 635-638, 2000.

Kagoura M., Toyoda M., Matsui C., and Morohashi M.: Immunohistochemical localization of ornithine decarboxylase in skin

tumors. *J. Cutan. Pathol.*, 27:338-343, 2000.

Higaki S., Kitagawa T., Kagoura M., Morohashi M., and Yamagishi T.: Correlation between *Propionibacterium acnes* biotypes, lipase activity and rash degree in acne patients. *J. Dermatol.*, 27(8):519-522, 2000.

Higaki S., Kitagawa T., Morohashi M., and Yamagishi T.: Predominant *Staphylococcus aureus* isolated from various skin diseases. *J. Int. Med. Res.*, 28:187-190, 2000.

Kagoura M., Toyoda M., Matsui C., Higaki S., and Morohashi M.: An ultrastructural study of pigmented purpuric dermatitis with special reference to fibrous long-spacing collagen. *Med. Electron Microsc.*, 33:39-43, 2000.

Kagoura M., and Morohashi M.: Alopecia mice derived from albino ddy mice (diptera:culicidae): bleeding, histological and ultrastructural studies. *Exp. Dermatol.*, 9:125-130, 2000.

諸橋正昭：漢方療法—どのようなアトピー性皮膚炎に有効か—。日本臨床皮膚科医学会雑誌，63：37-41，2000。

諸橋正昭，豊田雅彦，関太輔：アトピー性皮膚炎と漢方。日本東洋医学雑誌，50(4)：598-612，2000。

Higaki S., Morohashi M., Yamagishi T., and Hasegawa Y.: Comparative study of staphylococci from the skin of atopic

dermatitis patients and from healthy subjects, *Int J Dermatol*, 38 : 265-269, 1999.

Higaki S., Kitagawa T., Morohashi M., and Yamagishi T.: Efficacy of Shiunko for the treatment of atopic dermatitis, *J Int Med Res*, 27 (3) : 143-147, 1999.

Higaki S., Kitagawa T., Morohashi M., and Yamagishi T. : Distribution and antimicrobial susceptibility of coagulase-negative staphylococci from skin lesions, *J Int Med Res*, 27 (4) : 191-195, 1999.

Higaki S., Kitagawa T., Morohashi M., Yoshida I., and Yamagishi T.: Characteristics of *Streptococcus* species from infectious skin diseases. *J. Dermatol.*, 26 (12) :803-807, 1999.

Kagoura M., Toyoda M., Nagahori H., Makino T., and Morohashi M.: An ultrastructural and immunohistochemical study of pigmented dermatofibrosarcoma protuberans. *Eur. J. Dermatol.* 9: 366-369, 1999.

Kagoura M., Matsui C., and Morohashi M.: Phytol is a novel tumor promoter on ICR mouse skin. *Jpn. J. Cancer Res.* 90: 377-384, 1999.

Toyoda M., Luo Y., Makino T., Matsui C., and Morohashi M.: Calcitonin gene-related peptide upregulates melanogenesis and enhances melanocyte dendricity via induction

of keratinocyte-derived melanotrophic factors. *J. Invest. Dermatol. Symposium Proceedings*, 4(2): 116-125, 1999.

Sakita S., Kagoura M., Toyoda M., and Morohashi M.: The induction by topical minoxidil of increased fenestration in the perifollicular capillary wall. *Br. J. Dermatol.* 140: 294-296, 1999.

Onuma H., Matsui C., and Morohashi M.: Enhanced expression of SCF in the dermis is a prognostic factor for the regression of urticaria pigmentosa. *Eur. J. Dermatol.*, 629-632, 1999.

Ida M., Kageyama S., Sato H., Kamiyama T., Ymamura J., Kurokawa M., Morohashi M., and Shiraki K.: Emergence of resistance to acyclovir and penciclovir in varicellazoster virus and genetic analysis of acyclovir-resistant variants. *Antiviral Research*, 40:155-166, 1999.

諸橋正昭：漢方治療。「インフォームドコンセントのための図説シリーズ・アトピー性皮膚炎」西岡 清監修，44-45，医薬ジャーナル社，東京，1999.

関太輔、諸橋正昭：漢方療法の実際。「皮膚科診療プラクティス 6.アトピー性皮膚炎 —診療のストラテジー」古江増隆編，134-138，文光堂，東京，1999.

寺尾 浩

寺尾 浩、師井洋一、占部和敬、古賀哲也、古江増隆、絹川直子、野瀬義明：タクロリムス軟膏の使用量と副作用.

アレルギーの臨床 22 (4): 276-279, 2002

Furue M, Terao H, Koga T: Effects of cetirizine and epinastine on the skin response to histamine iontophoresis.

J Dermatol Sci. 25: 59-63, 2001

Nakayama J, Terao H, Koga T, Furue M:

Induction of CD54 and CD58 expression in cultured human endothelial cells by beta-interferon with or without hyperthermia in vitro. *J Dermatol Sci* 26:19-24, 2001

寺尾 浩、古江増隆：アトピー性皮膚炎の治療ガイドライン. *アレルギー科* 11 (3): 300-306, 2001

Duan H, Koga T, Masuda T, Mashino T, Imafuku S, Terao H, Murakami Y, Urabe K, Kiryu H, Furue M: CD1a+, CD3+, CD4+, CD8+, CD68+ and cutaneous lymphocyte-associated antigen-positive cells in Bowen's disease. *Br J Dermatol* 143: 1211-1216, 2000

Hiroshi Terao, Hiromaro Kiryu, Koichi Ohshima, Masahiro Kikuchi, Masutaka Furue: Cutaneous CD30 (Ki-1)-positive anaplastic large cell lymphoma preceded by Hodgkin's disease. *J Dermatol* 27: 170-173, 2000

寺尾 浩、古江増隆：アトピー性皮膚炎の成因をめぐって：T細胞の関与.

臨床免疫 33 (4): 434-437, 2000

「アトピー性皮膚炎の既存治療法の適応と有効性の再評価に関する研究」

主任研究者 古江増隆 九州大学大学院医学研究院皮膚科学分野教授

研究要旨

アトピー性皮膚炎に対する既存治療法の適応と有効性を再評価し、併せて治療ガイドラインの改訂について議論した。ステロイド外用薬については使用量や使用法の調査に基づきそのめやすを作成した。さらに小児例では小児科医と皮膚科医でのコンセンサスアンケート調査を取り入れ解析した。免疫調整外用薬については、外用中止後の再発率や使用量・副作用の調査を行い、ステロイド外用薬と比較した。また痒みを引き起こすメディエーターを基礎的に解析し、ステロイド外用薬および免疫抑制外用薬の止痒効果を実験的に明らかにした。難治例の皮疹と痒みに対する中波長紫外線療法の有効性を明らかにした。抗ヒスタミン薬・抗アレルギー薬に関してはステロイド未使用患者における有用性を明らかにした。食物アレルギーを有するアトピー性皮膚炎患者における除去食療法のフローチャートを作成した。漢方療法では頻用される方剤のスクリーニングを行い、併せて白虎加人参湯や梔子柏皮湯の止痒効果について免疫組織学的に明らかにした。環境抗原の解析では、*Candida albicans*、*Malassezia furfur* の両精製抗原に患者血清によって交叉反応を認める共通抗原が存在することが明らかとなったが、大多数の症例が強く反応する精製抗原は見いだせなかった。アトピー性脊髄炎（アトピー素因に関連した脊髄障害）の全国調査を行い、症状、検査学的異常、病理組織像を明らかにした。不適切治療の現状を文献的に考察し、死亡例も存在することを明らかにし、また市販製剤のステロイド分析調査を行った。以上のような検討を基に、「アトピー性皮膚炎治療ガイドライン 2001」の改訂すべき点について議論した。

分担研究者

鳥居秀嗣（東京大学医学部皮膚科講師）、柴田瑠美子（国立療養所南福岡病院小児科医長）、河野陽一（千葉大学医学部小児科教授）、溝口昌子（聖マリアンナ医科大学皮膚科教授）、吉池高志（順天堂大学医学部伊豆長岡病院皮膚科教授）、中村晃一郎（東京大学医学研究科皮膚科講師）、山本昇壯（広島大学医学部皮膚科名誉教授）、秋山一男（国立相模原病院臨床研究センター部長）、倉石 泰（富山医科薬科大学薬学部教授）、吉良潤

一（九州大学大学院医学研究院神経内科科学分野教授）、野瀬善明（九州大学大学院医学研究院医療情報科学分野教授）、竹原和彦（金沢大学大学院医学研究科血管新生・結合組織代謝学教授）、諸橋正昭（富山医科薬科大学医学部皮膚科教授）、寺尾 浩（国立療養所南福岡病院皮膚科）

A.研究目的

本研究はアトピー性皮膚炎（以下 AD と略す）に従来から行われている治療法であるステロイド

外用療法、免疫調整薬外用療法、抗ヒスタミン薬・抗アレルギー薬の内服療法、アレルギー除去療法、紫外線療法、漢方療法の各々の適応と有効性を再評価することを目的としている。さらに、いわゆる民間療法とされている治療法の持つ問題点やアトピー性脊髄炎の実態調査と病態解明についても検討する。そして治療ガイドラインを作成・改定し、その普及に努める。

B.研究方法

1)「AD に対する移植免疫抑制外用剤の中止後の再燃に関する研究」(鳥居)では新しい免疫抑制剤であるプロトピック軟膏と吉草酸ベタメサゾン軟膏について、外用中止後の皮疹再燃までの期間およびその程度について顔面と顔面以外について比較検討した。

2)「ステロイド外用薬・免疫抑制薬の長期使用に関する研究」(古江、野瀬、寺尾)では成人のAD患者に対して治療開始時より1ヶ月ごとに観察し、治療開始6ヵ月後までのグローバルな重症度評価、外用使用量、臨床改善度、副作用・合併症等について、総症例215例のステロイド軟膏、プロトピック軟膏を中心に調査した。

3)「小児のADに対するステロイド外用薬の適応と有効性に関する研究」(河野)では日本アレルギー学会認定皮膚科医および同認定小児科医に、顔面へ使用するステロイド外用薬のランクのガイドラインへの記載の是非とランク、ステロイド外用薬の使用量の目安、ステロイド外用薬の副作用の詳細について調査を行った。

4)「NCマウスの掻痒反応に対するステロイドと免疫抑制薬の作用」(倉石)ではNCマウスは通常環境下で飼育すると痒み関連反応としての掻き動作を惹起するようになる。そこで、このマウ

スを用いて、掻痒症の発生と皮膚バリア機能との関連性、およびステロイドとタクロリムスの塗布による抗掻痒作用を検討した。

5)「成人型ADに対するUVB療法に関する研究」(吉池)ではUVA療法に比べて簡便で保険適応があり欧米で広く行われているUVB療法について、その方法と有用性について検討した。

6)「アトピー性皮膚炎に対する抗アレルギー薬、抗ヒスタミン薬の効果に関する研究」では、ステロイド外用薬の効果を除いた抗アレルギー薬の効果を見る目的で、ステロイド外用群、保湿剤外用群での抗アレルギー薬治療の効果を皮疹スコア、掻痒スコア、血中ヒスタミン値、血中トリプターゼ値の変動を指標とし比較検討した。

7)「アレルギー除去食療法の適応と有効性に関する研究」(柴田)では、重症度別食物アレルギーの実態と検査による適応評価、除去食療法の有効性について、家族の評価、除去食療法の問題点を合わせ検討した。

8)「アトピー性皮膚炎に対する漢方療法の有効性に関する研究」(諸橋)では、患者のQOL向上を目指し、ADに有効な治療の選択肢を増やすため、本症に対する漢方薬の有効性に関して検討した。

9)「Candida albicans、Malassezia furfurの精製抗原に対するAD患者の反応性に関する研究」(秋山)では、人体常在菌であるCandida albicans (Ca) (Malassezia furfur (Ma)のAD病態への関与を検討するために、Ca及びMaの各種精製抗原に対するAD患者の反応性を検討した。「抗真菌療法による真菌数の変化について」(秋山)では、抗真菌療法によって真菌数がどのように変化するかを検討した。

10)「アトピー素因に関連した脊髄障害による

神経障害の差異に関する研究」(吉良)では先行するアトピー性疾患による病像の差異を検討し、全国調査で集積されたアトピー素因を有する好酸球性脊髄炎 5 例の浸潤リンパ球と活性化好酸球産物の免疫組織化学的検討を行った。

1 1)「アトピー性皮膚炎における不適切治療の文献的考察」(中村)と「アトピー性皮膚炎における不適切治療の情報収集と情報公開」(竹原)では、国内で報告された不適切治療の現状を文献的に考察しその現状を明らかにした。さらに日本皮膚科学会が組織したアトピー性皮膚炎治療問題委員会に寄せられた不適切治療に関する問い合わせについてもその情報公開の過程を検討した。

1 2)「AD 治療ガイドラインの作成およびその評価」(山本)では「アトピー性皮膚炎治療ガイドライン 2001」の内容をさらに検討し必要に応じて、改訂・追加を試みた。

C&D. 研究結果・考察

1)では、タクロリムス軟膏とこれと同等効果のステロイド外用剤について、薬剤中止後の皮疹再燃の程度を比較検討した結果、顔面ではステロイド外用剤に比して、タクロリムス軟膏の方が中止後の再燃の程度は有意に軽い傾向がみられた。

2)では、6ヵ月での判定が行われたものは 215 例であった。重症度をみた場合、重症以上が治療前 32.6%が6ヶ月後 4.7%に、中等症以上でみた場合、治療前 83.8%が6ヶ月後 36.8%と、顕著な改善傾向を示していた。副作用および合併症をみた場合、たとえば顔面の血管拡張においては軽度以上の治療前 34.9%が6ヶ月後 18.6%と改善していた。6ヵ月間の使用量(90%値)は、顔面ではプロトピック軟膏は 70 g、ステロイド外用薬は 15.0 g、躯幹・四肢ではプロトピック軟膏

は 75.8 g、ステロイド外用薬は 322.0 g であった。顔面のヘルペス感染症をみた場合、カポジ水痘様発疹症 7 例、単純ヘルペス感染症 3 例であった。カポジ水痘様発疹症が 7 例(発生率 3.35%)に認められた。

3)では、ステロイド外用薬のガイドラインへの記載の是非については、小児科医の 90%近くが、また皮膚科医のおよそ 2/3 がガイドラインへの記載が適当と考えていた。ガイドラインに記載する場合、顔面の軽度の皮疹に対しては皮膚科・小児科とも大部分が mild 群以下を用いるべきであると考えていた。顔面における強い皮疹を伴う炎症に対しては皮膚科・小児科とも大部分が strong 以下のステロイド外用薬を選択していた。

九州地区での皮膚科医の調査によって提示されたステロイド外用薬の使用量の目安に対して、小児科・皮膚科とも 2/3 が賛成していた。ステロイド外用薬の使用量に対する意見を提示した医師の使用量の目安をまとめると、医師によってばらつきが大きいものの、2歳未満、2歳以上13歳未満での顔面に対するステロイド外用薬の使用量の平均値はおおむね上記の目安量と合致していた。

4)では、AD のモデルとして用いた NC 系マウスと新しく作製した乾皮症モデルマウスにおいて、バリア機能の低下が自発的な掻き動作の出現よりも先行したことから、皮膚バリア機能の低下は痒みを誘発する可能性が高いことが明らかとなった。これらのマウスで発症する痒みには、皮膚内で産生が高まる一酸化窒素(NO)が重要な因子であることが判明した。タクロリムスは反復投与により、NC 系マウスの掻痒反応を抑制した。このとき、皮膚枝神経活性が低下していたので、その主な作用部位は末梢の皮膚レベルであると考えられるが、皮膚内の NO 濃度は高値のままであったの

で、その抗搔痒作用には NO 系とは異なる機序が関与する。

5) では、ステロイド外用薬に併用した UVB 療法（外来週 1 回法）はステロイド外用薬単独治療で改善の明かでない AD の症状を低減するのに有効であり、特にスキントップ 1 のものでは治療効果が大きい傾向があった。

6) では、治療前および抗アレルギー薬内服+保湿剤外用後の皮疹スコア・搔痒スコアに関しては皮疹スコアに有意の改善がないにも関わらず搔痒スコアにのみ有意の改善を認めた。さらに、治療前および抗アレルギー薬内服+保湿剤外用群の血中ヒスタミンと血中トリプターゼについて検討したところ、治療前後で有意な低下を認めた。

7) では、重症群で即時および遅発型の食物アレルギー誘発率が高く、多種アレルギー傾向がみられ、特異 IgE 抗体高値ほど食物パッチテスト陽性率は高かった。また大豆、米などの遅延型反応主体例ではパッチテストが有用であった。除去食療法により、中等～重症では 6 ヶ月で 8～9 割がステロイド不使用または減量で改善し、母親の評価も同様であった。不適切な食物除去により高度の栄養障害を来たして受診した乳児例が過去に 4 例あり、母親家族への指導の重要性が伺われた。

8) では、白虎加人参湯および梔子柏皮湯はアトピー性皮膚炎に対して臨床的に有用であり、その奏功機序は皮膚局所のみならず末梢血液中の諸因子に作用する結果であることが明らかにされた。

9) では、Ca 及び Ma 精製抗原に対する IgE 抗体産生は、AD 群では非 AD 群より有意に高い陽性率、抗体価を示したが、個々の患者において精製抗原に対する反応パターンは異なり、大多数の症例が強く反応する精製抗原は見いだせなかった。抗真菌療法による不変・悪化群では Ca の即時型

反応が 5 例中 2 例であったのに対して、やや有効・有効群は 7 例中 6 例で陽性であり有意に低い陽性率であった。

10) では、AD に伴い頸髄炎が発症することや、AD の合併がなくても高 IgE 血症とダニ特異的 IgE 抗体が陽性である脊髄炎の存在を指摘し、アトピー性脊髄炎 (atopic myelitis; AM) という疾患単位を提唱してきた。AD を背景に発症する脊髄炎は若年女性に好発し、頸髄病変が多く、また気道アレルギーを背景とする脊髄炎も頸髄病変が多く、このことは通常脊髄炎が胸髄に好発することと対照的であることが判明した。その病理像は他のアトピー性疾患同様に好酸球性炎症であり、臓器特異的自己免疫疾患である多発性硬化症とは、免疫遺伝学的背景、臨床的・病理組織学的特徴、さらには治療効果の上でも明らかに異なる病態であることが明らかとなった。

11) では、J Medicine 4,625,0465 件のうち、AD における不適切治療の症例は 74 例認められた。不適切治療によって生じた合併症の転帰は、軽快例 70%であったが、その他に後遺症(透析 3 例)、心不全 1 例、死亡 3 例などが認められた。不正な外用薬の中で「皮炎霜」、その他 2 種の薬剤より、プロピオン酸クロベタゾールが、「皮炎平 999」その他 3 種の薬剤より、酢酸ベタメタゾンが検出された。多くのメディアで本問題が取り上げられ、また患者相談窓口を通じてのアドバイスで健康被害の拡大を最小限とすることに成功した。

12) では、改訂版「アトピー性皮膚炎治療ガイドライン 2002」の骨子をまとめ、現在作成中である。完成版は冊子として公表するとともに、ホームページに掲載しその普及につとめる予定である。

E. 結論

AD に従来から行われている治療法であるステロイド外用療法、免疫調整薬外用療法、抗ヒスタミン薬・抗アレルギー薬の内服療法、アレルゲン除去療法、紫外線療法、漢方療法の各々の適応と有効性を再評価し、いわゆる民間療法とされている治療法の持つ問題点やアトピー性脊髄炎の実態調査と病態解明ついて今年度も検討した。これらの検討結果をもとに、治療ガイドライン 2001 を公表した。また一般向けのパンフレットも作成しホームページに掲載しその普及に努めた

<http://www.med.kyushu-u.ac.jp/atopy/atopy.html>

<http://www.med.kyushu-u.ac.jp/atopy/pamph.html>

現在、さらに改訂すべき点を検討しており、治療ガイドライン 2002 を作成中である。

F. 健康危険情報

特記すべき事項なし

G. 研究発表

1. 論文発表

①Kohda F, Koga T, Uchi H, Urabe K, Furue M: Histamine-induced IL-6 and IL-8 production are differentially modulated by IFN- γ and IL-4 in human keratinocytes. *J Dermatol Sci*, 28:34-41,2002

②Koga T, Duan H, Urabe K, Furue M: In situ localization of IFN- γ positive cells in psoriatic lesional epidermis. *Eur J Dermatol*, in press

③Koga T, Duan H, Urabe K, Furue M: In situ localization of CD83-positive dendritic cells in psoriatic lesions. *Dermatology*, in press

④Koga T, Duan H, Urabe K, Furue M:

Immunohistochemical detection of interferon- γ - producing cells in dermatophytosis.

Eur J Dermatol, 11(2):105-107, 2001

⑤Jun-ichi Kira, Izumi Horiuchi, Jun Suzuki, Manabu Osoegawa, Shozo Tobimatsu, Hiroyuki Murai, Motozumi Minohara, Masutaka Furue and Hirofumi Ochi Myelitis Associated with Atopic Disorders in Japan: a Retrospective Clinical Study of the Past 20 Years

Internal Medicine 40(7) pp:613-619 2001

⑥Duan H, Koga T, Kohda F, Hara H, Urabe K, Furue M: Interleukin-8-positive neutrophils in psoriasis. *J Dermatol Sci* 26:119-124, 2001

⑦Akikawa M, Yu B, Umeshita-Suyama R, Terada N, Suto H, Koga T, Arima K, Matsushita S, Saito H, Ogawa H, Furue M, Hamasaki N, Ohsima K, Izuhara K : Localization of human interleukin 13 receptor in non-haematopoietic cells.

CYTOKINE 13:75-84, 2001

⑧Motoshi Wakugawa, Koichiro Nakamura, Masahiro Akatsuka, Shin Su Kim, Yoshitugu Yamada, Hiroshi Kawasaki, Kunihiko Tamaki, Masutaka Furue : Expression of CC chemokine receptor on human keratinocytes in vivo and in vitro - upregulation by RANTES-. *J Dermatol Sci* 25:229-235, 2001

⑨M Furue, H Duan, H Uchi, T Koga Multiple spontaneous regression of seborrheic keratosis associated with nasal carcinoma. *Clinical and Experimental Dermatology* 2001

⑩川島 眞、宮地良樹、中川秀己、飯塚 一、伊

藤雅章、塩原哲夫、島田眞路、瀧川雅浩、竹原和彦、橋本公二、古江増隆. アトピー性皮膚炎の診療に対する患者の認識についてのアンケート調査

(第1報) 臨床皮膚科 第55巻 第2号 pp: 113-119, 2001

⑪古江増隆、監修: 西岡 清、今野昭義、アレルギーをブロックする② 湿疹・皮膚炎の治療 (アトピー性皮膚炎を含む、日本医師会雑誌 第125巻.第11号/2001

⑫古江増隆、力久 航、寺尾 浩、古賀哲也、絹川直子、野瀬善明 特集●アトピー性皮膚炎 2001 適正医療の普及と不適切治療の排除をめざして実地診療におけるステロイド外用薬の長期投与と副作用 アレルギー・免疫 8 (11) pp: 19-25 2001

⑬古江増隆、力久 航、寺尾 浩、古賀哲也、絹川直子、野瀬善明 アトピー性皮膚炎におけるステロイド外用薬の使用調査皮膚 第43巻 増刊23号 pp:62-66 2001

⑭寺尾 浩、古江増隆 特集●成人のアトピー性皮膚炎; 最新の治療とケア患者ケアに必要な基礎知識 アトピー性皮膚炎の診断基準と治療ガイドライン 臨床看護 27 (7): 1023-1028 2001

⑮古江増隆 特集: アトピー白内障の成因 アトピー白内障とステロイド外用 日本白内障学会誌 13: 58~61 2001

2. 学会発表

①古江増隆、他 アトピー性皮膚炎についていっしょに考えましょうーアトピー性皮膚炎治療の新しい流れー 市民公開講座 2001

②古江増隆 蕁麻疹とアトピー性皮膚炎 日本アレルギー学会 第20回日本アレルギー学会認定医教育セミナー 2001

③Masutaka Furue Topical Corticosteroid in

daily management of atopic dermatitis International Symposium on Atopic Dermatitis (Portland) 2001

④古江増隆 皮膚: 小児・成人アトピー性皮膚炎・蕁麻疹 アレルギー・臨床免疫医を目指す人達の為の研修会 2001

⑤Masutaka Furue Advances of topical treatment -Steroids and tacrolimus- Japan-Taiwan Atopic Diseases Workshop 2001

H. 知的所有権の取得状況

特記すべき事項なし

I. 分担研究者研究発表

鳥居秀嗣

Kakinuma T, Nakamura K, Wakugawa M, Mitsui H, Tada Y, Saeki H, Torii H, Komine M, Asahina A, Tamaki K: Serum macrophage-derived chemokine (MDC) levels are closely related with the disease activity of atopic dermatitis. Clin Exp Immunol 127:270-3, 2002

Kakinuma T, Nakamura K, Wakugawa M, Mitsui H, Tada Y, Saeki H, Torii H, Asahina A, Onai N, Matsushima K, Tamaki K: Thymus and activation-regulated chemokine in atopic dermatitis: Serum thymus and activation-regulated chemokine level is closely related with disease activity. J Allergy Clin Immunol. 107:535-541, 2001

鳥居秀嗣：顔面紅斑に対するタクロリムス軟膏の有効性 アレルギーの臨床 (in press)

鳥居秀嗣：樹状細胞 やさしい皮膚免疫学 (in press)

湧川基史, 柿沼誉, 中村晃一郎, 古屋典子, 佐伯秀久, 鳥居秀嗣, 玉置邦彦, 安藤巖夫：アトピー性皮膚炎患者の痒みならびに好酸球増多に対するヒスタグロビンの効果 アレルギーの臨床 21:553-558, 2001

浅野善英, 藤田悦子, 服部尚子, 湧川基史, 金子健彦, 鳥居秀嗣, 小宮根真弓, 朝比奈昭彦, 川端康浩, 相馬良直：病理組織型と耐糖能障害の関連を示唆した脂肪類壊死の 2 例 皮膚科の臨床

43:562-563, 2001

三井浩, 小宮根真弓, 多田弥生, 鳥居秀嗣, 朝比奈昭彦, 玉置邦彦：IgA 腎症を伴った乾癬. 皮膚科の臨床 43:229-232, 2001

三井浩, 小宮根真弓, 多田弥生, 鳥居秀嗣, 朝比奈昭彦, 玉置邦彦：ぶどう膜炎を伴った尋常性乾癬の 1 例. 皮膚科の臨床 43:237-239, 2001

鳥居秀嗣：感染防御の第一線としての皮膚 日本臨床皮膚科医学会雑誌 70:36-40, 2001

柴田瑠美子

柴田瑠美子 食物アレルギー 臨床と研究 79 : 245-248, 2002.

柴田瑠美子 アトピー性皮膚炎における食物アレルギーの実態 - 小児科外来から - 皮膚 43 (Sup23) : 15-17, 2001.

本村千華子 柴田瑠美子 西江温子 食物パッチテストに基づく食事指導が有用であった乳幼児アトピー性皮膚炎の 3 例 アレルギーの臨床 21 : 77-81, 2001.

柴田瑠美子 食物アレルギー・薬物アレルギー 小児科臨床 54 : 653-636, 2001

柴田瑠美子 即時型食物アレルギーの臨床 アレルギー・免疫 8 : 30-35, 2001

河野陽二

Kubota, H., Tanabe, Y., Komiya, T., Hirai, K.,

Takanashi, J., Kohno, Y. (2001) Q fever encephalitis with cytokine profiles in serum and cerebrospinal fluid. *Pediat. Infect. Dis. J.* 20, 318-319.

Kohno, Y., Shimojo, N., Kojima, H., Katsuki, T. (2001) Homing receptor expression on cord blood T lymphocytes and the development of atopic eczema in infants. *Int. Arch. Allergy Immunol.* 124, 332-335.

Tateno, S., Terai, M., Niwa, K., Jibiki, T., Hamada, H., Yasukawa, K., Honda, T., Oana, S., Kohno, Y. (2001) Alleviation of myocardial ischemia after Kawasaki disease by heparin and exercise therapy. *Circulation* 103, 2591-2597.

Kubota, H., Ohson, Y., Oka, F., Sueyoshi, T., Takanashi, J., Kohno, Y. (2001) Significance of clinical risk factors of cystic periventricular leukomalacia in infants with different birthweights. *Acta Paediatr* 90, 302-308.

Arii, J., Tanabe, Y., Miyake, M., Noda, M., Takahashi, Y., Hishiki, H., Kohno, Y. (2001) Acute encephalopathy associated with nontyphoidal salmonellosis. *J Child Neurol* 16, 539-540.

Jibiki, T., Terai, M., Shima, M., Ogawa, A., Hamada, H., Kanazawa, M., Yamamoto, S., Oana, S., Kohno, Y. (2001) Monocyte chemoattractant protein 1 gene regulatory

region polymorphism and serum levels of monocyte chemoattractant protein 1 in Japanese patients with Kawasaki disease. *Arthritis Rheumatism.* 44, 2211-2212.

溝口昌子

Obara W, Kawa Y, Ra C, Nishioka K, Soma Y, Mizoguchi M. T cells and mast cells as a major source of interleukin-13 in atopic dermatitis. *Dermatology (in press).*

Kaminishi K, Soma Y, Kawa Y, Mizoguchi M: Flow cytometric analysis of IL-4, IL-13 and IFN- γ expression in peripheral blood mononuclear cells and detection of circulating IL-13 in patients with atopic dermatitis provide evidence for the involvement of type 2 cytokines in the disease, *J Dermatol Sci(in press).*

Takahama H, Masuko-Hongo K, Tanaka A, Kawa Y, Ohta N, Yamamoto K, Mizoguchi M, Nishioka K, Kato T: T cell clone type specific for *Dermatophagoides Pteronyssinus* in the skin lesions of patients with atopic dermatitis, *Hum Immunol(in press).*

Goto T, Soma Y, Ra C, Kawa Y, Kubota Y, Mizoguchi M: Enhanced expression of the high-affinity receptor for IgE associated with decreased numbers of Langerhans cells in the lesional epidermis of atopic dermatitis. *J Dermatol Sci.* 27(3):156-161, 2001.

Kawakami T, Soma Y, Morita E, Koro O, Yamamoto S, Nakamura K, Tamaki K, Yajima K, Imaizumi A, Matsunaga R, Murakami N, Kashima M, Mizoguchi M: Safe and effective treatment of refractory facial lesions in atopic dermatitis using topical tacrolimus following corticosteroid discontinuation. *Dermatology*. 203(1):32-37. 2001.

Kanbe T, Soma Y, Kawa Y, Kashima M, Mizoguchi M: Serum levels of soluble stem cell factor and soluble KIT are elevated in patients with atopic dermatitis and correlate with the disease severity. *Br J Dermatol*. 144(6):1148-1153.2001

中村晃一郎

Tada Y, Asahina A, Nakamura K, Miyazono K, Fujiwara H, Tamaki K. Transforming growth factor β upregulates CD40-engaged IL-12 production of mouse Langerhans cells. *Eur J Immunol*. 31: 294-300, 2001.

Kakinuma T, Nakamura K, Wakugawa M, Torii H, Asahina A, Tamaki K. Thymus and activation-regulated chemokine (TARC) in atopic dermatitis. The serum level of TARC is correlated with disease activity. *J Allergy Clin Immunol*.107: 535-541, 2001.

Watanabe T, Nakamura K, Wakugawa M, Kato A, Nagai Y, Shioda T, Iwamoto A, Tamaki K. Antibodies to molluscum contagiosum virus in the general population

and susceptible patients. *Arch Dermatol*. 136: 1518-22,2001.

Asahina A, Tada Y, Nakamura K, Tamaki K. Colchicine and griseofulvin inhibit VCAM-1 expression on human vascular endothelial cells. –evidence for the association of VCAM-1 expression with microtubules. *J Dermatol Sci*. 25: 1-9, 2001.

Sugaya M, Nakamura K, Asahina A, Tamaki K. Leukocytoclastic vasculitis with IgA deposits in angioimmunoblastic T cell lymphoma. *J Dermatol*. 28: 32-37, 2001.

Wakugawa M, Nakamura K, Tamaki K. Evaluation of mite allergen-induced Th1 and Th2 cytokine secretion of peripheral blood mononuclear cells from atopic dermatitis patients: association between IL-13 and mite specific IgE levels. *J Dermatol Sci*. 25: 116-126, 2001.

Wakugawa M, Nakamura K, Akatsuka M, Kim S, Yamada Y, Kawasaki H, Tamaki K, Furue M. Expression of CC chemokine receptor 3 on human keratinocytes in vivo and in vitro-upregulation by RANTES. *J Dermatol Sci*. 25: 229-35, 2001.

Xin X, Nakamura K, Liu H, Nakayama E, Goto M, Nagai Y, Kitamura Y, Shioda T, Iwamoto A. Novel polymorphisms in human macrophage inflammatory protein-1 alpha (MIP-1 α) gene.

Genes and Immunity. 2: 156-158, 2001.

Tamaki K, Sugaya S, Tada Y, Yasaka N, Uehira M, Nishimoto M, Nakamura K. Epidermal and dermal $\gamma\delta$ T cells in the skin. *Chemical Immunol*, in press.

Asahina A, Nakamura K, Tamaki K. Griseofulvin modulates the expression of adhesion molecules on neutrophils and vascular endothelial cells. *Immunopharmacol*. in press

Tamaki K, Tada Y, Nagaoka Y, Koyama Y, Asahina A, Nakamura K. Murine epidermal Langerhans cells: Cytokine secretion and expression of adhesion molecules. *Dendritic cells*. 11: 31-33, 2001

Kakinuma T, Nakamura K, Wakugawa M, Mitsui H, Tada H, Saeki H, Torii H, Komine M, Asahina A, Tamaki K. Serum macrophage-derived chemokine (MDC) levels are closely related with the disease activity of atopic dermatitis. *J Clin Exp Immunol*. in press

Sugaya M, Nakamura K, Tamaki K. Expression of cellular prion-related protein by murine Langerhans cells and keratinocytes. *J Dermatol Sci*. in press

Yano S, Nakamura K, Yamane K, Kakinuma T, Asahina A, Tamaki K. Subcutaneous metastasis following percutaneous ethanol

injection therapy for hepatocellular carcinoma. *Acta Derm Venereol*. 81(3):213-4, 2001.

Kawakami T, Soma Y, Morita E, Koro O, Yamamoto S, Nakamura K, Tamaki K, Yajima K, Imaizumi A, Matsunaga R, Murakami N, Kashima M, Mizoguchi M. Safe and effective treatment of refractory facial lesions in atopic dermatitis using topical tacrolimus following corticosteroid discontinuation. *Dermatology*. 203(1):32-7, 2001.

Wakugawa M, Nakamura K, Kakinuma T, Onai N, Matsushima K, Tamaki K. CC chemokine receptor 4 expression on peripheral blood CD4+ T cells reflects disease activity of atopic dermatitis. *J Invest Dermatol*. 117(2): 188-96, 2001

Tamaki K, Sugaya M, Tada Y, Yasaka N, Uehira M, Nishimoto H, Nakamura K. Epidermal and dermal gamma-delta T cells. *Chem Immunol*. 79:43-51, 2001

山本昇壯

山本昇壯: アトピー性皮膚炎治療ガイドライン. *臨床と研究*, 79: 221-213, 2002.

古川福実: アトピー性皮膚炎治療ガイドライン. *アレルギー・免疫*, 8: 1209-1217, 2001.

古江増隆,他: 実地診療におけるステロイド外用薬の長期投与と副作用. *アレルギー・免疫*.8: 1219-1225, 2001.

秋山一男

Takatori, K., Saito, A., Yasueda, H., Akiyama, K. : The effect of house design and environment on fungal movement in homes of bronchial asthma patients. *Mycopathologia* 2000;152:41-49 (Published in 2001)

Mori, A., Okudaira, H., Kobayashi, N., Akiyama, K. : Selective Regulation of T Cell IL-5 Synthesis by OM-01, JTE-711 and p38 MAP Kinase Inhibitor: Independent Control of Th2 Cytokines, IL-4 and IL-5. *Int Arch Allergy Immunol* 2001;124:172-175

Saito, H., Yamamoto, N., Tomita, S., Taniguchi, M., Hasegawa, M., Akiyama, K., Kawaguchi, H., Takahashi, K. : Effect of Emedastine Difumarate on CC Chemokine-Elicited Eosinophil Migration. *Int Arch Allergy Immunol* 2001;125(suppl 1):22-28

Mori, A., Ikeda, Y., Taniguchi, M., Aoyama, C., Maeda, Y., Hasegawa, M., Kobayashi, N., Akiyama, K. : IL-5 Production by Peripheral Blood Th Cells of Adult Asthma Patients in Response to *Candida albicans* Allergen. *Int Arch Allergy Immunol* 2001;125(suppl 1):48-50

倉石 泰

Yamaguchi T., Maekawa T., Nishikawa Y., Nojima H., Kaneko M., Kawakita T., Miyamoto T. & Kuraishi Y.: Characterization of itch-associated responses of NC mice with

mite-induced dermatitis. *J. Dermatol. Sci.*, 25: 20-28, 2001

Ohtsuka E., Kawai S., Ichikawa T., Nojima H., Kitagawa K., Shirai Y., Kamimura K. & Kuraishi Y.: Roles of mast cell and histamine in mosquito bite-induced allergic itch-associated responses in mice. *Jpn. J. Pharmacol.*, 86: 97-105, 2001

Basnet P., Yasuda I., Kumagai N., Tohda C, Nojima H., Kuraishi Y. & Komatsu K.: Inhibition of itch-scratch response by fruits of *Cnidium monnieri* in mice. *Biol. Pharm. Bull.*, 24: 1012-1015, 2001

Andoh T., Katsube N., Maruyama M. & Kuraishi Y.: Involvement of leukotriene B4 in substance P-induced itch-associated response in mice. *J. Invest. Dermatol.* 117:1621-1626, 2001

Miyamoto, T., Nojima, H., Shinkado, T., Nakahashi, T. & Kuraishi, Y.: Itch-associated response induced by experimental dry skin in mice. *Jpn. J. Pharmacol.* (in press)

Miyamoto, T., Nojima, H. & Kuraishi, Y.: Intradermal cholinergic agonists induce itch-associated response via M3 muscarinic acetylcholine receptor in mice. *Jpn. J. Pharmacol.* (in press)

吉良潤一

Kikuchi H, et al. Spinal cord lesions of myelitis with hyperIgEaemic and mite antigen specific IgE (atopic myelitis) manifest eosinophilic inflammation. *J Neurol Sci* 183: 73-78, 2001.

Osoegawa M, et al. Localised myelitis caused by visceral larva migrans due to *Ascaris suum* masquerading as an isolated spinal cord tumour. *J Neurol Neurosurg Psychiatry* 70: 265-266, 2001.

Kira J, et al. Juvenile muscular atrophy of distal upper extremity (Hirayama disease) associated with atopy. *J Neurol Neurosurg Psychiatry* 70: 798-801, 2001.

Minohara M, et al. Differences between T cell reactivities to major myelin protein-derived peptides in opticospinal and conventional forms of multiple sclerosis and healthy controls. *Tissue Antigens* 57: 447-546, 2001.

Kira J, et al. Myelitis associated with atopic disorders in Japan: a retrospective clinical study of the past 20 years. *Intern. Med.* 40: 613-619, 2001.

Horiuchi I, et al. Th2 shift in mononeuritis multiplex and increase of Th2 cells in chronic inflammatory demyelinating polyneuropathy: an intracellular cytokine analysis. *J. Neurol. Sci.* 193: 49-52, 2001.

Ochi H, et al. Tc1/Tc2 and Th1/Th2 balance in Asian and Western types of multiple sclerosis (MS), HTLV-1-associated myelopathy/tropical spastic paraparesis (HAM/TSP) and hyperIgEaemic myelitis. *J. Neuroimmunol.* 119: 297-305, 2001.

野瀬善明

Association of meteorological and day-of-the-week factors with emergency hospital admissions in Fukuoka, Japan.

Makie T., Harada M., Kinukawa N., Toyoshiba H., Yamanaka T., Nakamura T., Sakamoto M. and Nose Y.

International Journal of Biometeorology 46:38-41, 2002

A practical procedure to prevent electromagnetic interference with electronic medical equipment.

Hanada E., Takano K., Antoku Y., Matsumura K., Watanabe Y. and Nose Y. *Journal of medical systems* 26(1): 61-65, 2002

A filter that prevent the spread of mail attachment-type Trojan horse computer worms.

Kobayashi S., Goudge M., Makie T., Hanada E., Harada M. and Nose Y. *Journal of Medical Systems* 26(3): 221-225, 2002

Possible electromagnetic interference with electronic medical equipment by radio waves